



4年間の教育内容

教養教育課程

柔軟な発想と探求心、情報収集能力とそれを踏まえて自ら考え判断する力、そして自ら意志を表現する力を身につけ、社会で行動を続ける学生を育成します。

- 1 大学生活の中で必要な目的意識の明確化**
基礎セミナー「男女共同参画入門」などで、大学で何をすればいいか、将来像を考え、大学生活の目的を明確にします。
- 2 国際社会で生きる日本人として必要な、基礎的な表現力の修得**
将来、社会に出て活躍する学生が身につけるべき基礎的な表現力として、情報検索、情報機器の使い方、英語コミュニケーション能力、文章表現能力の習得をめざします。
- 3 グローバルな視点を持ち、日本社会や文化に精通するための幅広い知識と、それに基づいた認識力と分析力の修得**

専門教育課程

人材育成の目的を踏まえた上で、専門の骨格を正確に把握させるため、基礎・基本を重視するとともに、管理栄養士の専門性を高めることをねらいとします。また、その基礎となる「専門基礎分野」、高度な知識や技術を修得するための「専門分野」に大別して編成しています。

1 専門基礎分野

社会・環境と健康

人間や生活についての理解を深め、社会や環境と健康の関わりについて理解を深めます。

人体の構造と機能及び疫病の成り立ち

人体の構造や機能を系統的に理解するとともに、主要疾患の成因、病態、診断、治療等を理解します。

食べ物と健康

食品の各種成分や人体に対する栄養面や安全面等への影響、評価を理解します。

2 専門分野

基礎栄養学

栄養とは何か、また、その意義について理解することを教育目標とします。

応用栄養学

身体状況や栄養状態に応じた栄養管理の考え方を理解することを教育目標とします。

公衆栄養学

地域や職域等における保健・医療・福祉・介護システムの中で、適切な栄養関連サービスを提供するプログラムの作成・実施・評価についての総合的なマネジメント能力の修得を教育目標とし、社会的資源の活用、栄養情報の管理、コミュニケーションの管理などの仕組みについて理解します。

栄養教育論

食と健康の問題を総合的に理解し、健康・栄養状態、食行動、食環境などに関する情報の収集・分析・評価・判定の能力を養い、対象に応じた栄養教育プログラムの作成・実施を総合的にマネジメントできるような健康・栄養教育の理論と方法を修得します。また、行動科学やカウンセリングの理論・応用について学ぶことを教育目標とします。

臨床栄養学

傷病者の病態や栄養状態の特徴に基づいて適切な栄養管理を行うため、栄養ケアプランにおける総合的なマネジメントの考え方とその具体的方法について修得します。さらに、医療・介護制度やチーム医療における管理栄養士の役割について理解することを教育目標とします。

給食経営管理論

給食運営や関連資源を総合的に判断し、マーケティングの原理・応用の理解とともに、組織管理などのマネジメントの基本を修得して栄養面、安全面、経済面全般のマネジメント能力を養うことを教育目標とします。

総合演習

適正な栄養評価や栄養管理を行うため、専門分野を横断した演習を通して専門分野の教育内容ごとに修得した知識・技能を統合する能力を修得します。

臨地実習

学内で修得した知識・技術を栄養管理の実践の場に適用し、理論と実践を結びつけ、栄養評価・判定に基づく適切なマネジメントを行うために必要な専門知識及び技術の統合を図ることを教育目標とします。

卒業研究

将来の実践活動に対応できる情報収集、分析、応用、展開する能力や主体的な思考力や判断力を伴った研究的態度を養うことを教育目標とします。



117年の女子教育の歴史に裏付けられた 栄養科学科の教育の特色

1 人間性豊かな管理栄養士の養成

我が国は、戦後めざましい復興を遂げ、経済大国の仲間入りを果たしました。しかし、最近の様々な事件等に見られますように、人々は物質文明を享受するあまり、大切な日本古来の美風を忘れ、人間として不可欠な心さえ失われつつあります。このような時代だからこそ、本学が理想とする「尚綱、貞操、敬愛、勤儉、報恩」を軸にして、豊かな人間性をもった管理栄養士を養成します。

2 医療チームの一員として活躍できる管理栄養士の育成

医療人としての高い専門知識と技能を持つとともに、豊かな人間性をも身につけ、医師、看護師、薬剤師等とともに、医療チームの一員として十分な責任を果たし得る実力のある管理栄養士を育成します。

3 幅広く社会に貢献できる栄養管理のスペシャリストの育成

単に管理栄養士の育成にとどまらず、栄養管理のための高い知識と技術を備え、他の資格や様々な職場で必要とされる、栄養管理のスペシャリストを育成します。

4 「食育」のための、人間性豊かな栄養教諭を育成

最近、食生活の乱れが生活習慣病の原因として注目されています。その影響は子供たちにも及び、生活習慣病の低年齢化を招いています。そのため、政府も望ましい食習慣の形成を進めており、本学でも豊かな人間性を持った栄養教諭を育成します。

5 県内トップクラスの実績に裏付けられた新学部の設置

専攻科の管理栄養士国家試験合格者数は、短大としては九州でもトップクラスであり、また熊本県下の栄養士の70%以上を、短大家政科食物栄養専攻の卒業生が占めています。下の表は、専攻科（短期大学食物栄養専攻を除く。）新卒者の管理栄養士国家試験受験者数と合格率です。平成17年までは、管理栄養士養成大学（4年制）の卒業生は6科目が免除されていました（平成18年から免除はなくなります。）が、本学専攻科の数字は免除なしでの数字です。

卒業年度	新卒受験者数	新卒合格者数	専攻科合格率	全国平均合格率
16年度	26	14	53.8	25.3
15年度	24	11	45.8	15.8
14年度	21	12	57.1	19.8
13年度	25	17	68.0	20.9
12年度	27	11	39.3	21.4
11年度	28	13	46.4	22.7
10年度	18	12	66.6	30.1